

年間第17主日

## 「天の国」のたとえ

マタイ福音書 13章 44-46

(そのとき、イエスは人々に言われた。)

「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠を一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。」

-----  
音楽の場合、ライブ、生で見聞きするのと、テレビやCDで見聞きするのではおおきな違いがあります。やっぱり生の迫力は実際に見てみないとわからないというのが実感でしょう。イエスのたとえ話もそれに似ているのではないかと、というのが最近の新約聖書学の見方です。きょうのテキストも読むとなんだ？っておおきなハテナが浮かんできます。ちょうど、音楽ライブを実際に見るのとDVDで収録ライブを再生して見ることに違いがあるように、イエスが実際に語った内容と、福音書に記された内容が違うというわけではないのですが、どうも伝承され文字になった時点でなんかエッセンスが消えてしまった、肝心なところが漏れてしまったのではないかと、という疑いを最近の新約学は提示しています。

さて、テキストの一つ目は、畑で宝が埋まっていることを知った小作人が地主の土地を買う話、二つ目の話は、真珠商人が良い真珠を見つけた、小作人と同じように全財産をはたいて上物の真珠を手に入れる。テキストの畑の宝、真珠一粒が「天の国」「神の国」のたとえだという。じゃあこのたとえは「天の国」を見つけたらどんな手段をつかってでも、全財産を投げ打って手に入れろという話でしょうか。伝統的解釈はわたしたちは日々の暮らしの中で、神の国をたえず求め、神を中心とした生き方をしなければいけませんよ、

人間的な生き方に満足してはいけません、という教訓なのだと説明します。でも畑の宝をみつけた人は正直に地主にその旨を伝えればいいのに、内緒にして買い取る。とても正直者とはいえません。真珠商人はどのような腹積もりなのか一粒の真珠に全財産を投げ打つ。商売人なんだから転売してもっと儲けるつもりなんじゃないか？という疑いは残ります。

障害をもつ子どもがいた。親はその子の世話で毎日疲れきってしまった。役所に相談したらヘルパーさんに少しだけでも面倒を見てもらったらと勧められたので、ヘルパーを頼んでみた。数時間だが休息がとれて気力がよみがえったような気がしたので、また頼んでみようと思った。一方、頼まれたヘルパーはその子どもの中にとっても素晴らしいもの（埋もれていた宝）があることに気づいた。うちに帰って全財産を売り払い現金を用意し、その子どもを買い取った。これじゃ人さらい、人身売買のはなしになってしまうので、ありえない話なのですが、障がい児が遠因になって夫婦仲がうまくいなくなり離婚してしまった、また、その障がい児の兄弟がいろいろな理由でうまくいかず不良になった、心に闇をかかえてしまった、こんな話はなさそうでありそうです。「畑に隠された宝」「高価な真珠」にたとえられている「天の国」「神の国」というのは身近にある、でもそれに気づかない人もいれば、気づく人もいます。それに埋もれてしまう人もいるだろうし、逆にそれを活かせる人もいるだろう。

第一朗読のソロモンは気づく人だった。願いをかなえてやるという神の申し出（めぐみ）に対して知恵をねだり、彼は神に喜ばれるものとなりました。第二朗読では、パウロは奥義にふれた者であったので、すべてのことが益となって共に働くということを知っており、それを人々につたえみんなを励ましました。

きょうのたとえはわかりづらいたとえだと思います。でも、それこそが福音書に記録された理由なのかもしれません。わたしたちはイエスのたとえをそ

のままにうけとり、いまはわからなくても心の中にしまっておけば、時がきたらその時にイエスがわたしたち一人ひとりに語りかけてくれます。

-----